

祝 辞

本日、ここ海上自衛隊 第1術科学校 大講堂において、第52期 一般幹部候補生課程の卒業式が挙行されるに当たり、地元、江田島市民を代表して、一言お祝いの御挨拶を申し上げます。

この輝かしい歴史と伝統を誇る、海上自衛隊幹部候補生学校を巣立って行かれる、第52期卒業生の皆様、そして御臨席の御家族の皆様、本日は誠におめでとうございます。

また、今日まで御指導を尽くされました 南 学校長を始め、教官の方々並びに職員の皆様方に対して、深甚なる敬意を表します。

さて、我が国を取り巻く安全保障環境に目を向けますと、昨年12月に発生した韓国海軍駆逐艦による海自P1哨戒機への火器管制レーダー照射事案は、一步間違えば不測の事態を招きかねないもので、再発防止が強く望まれるものであります。

こうした状況の中でも、自衛官の皆様が、日本国民の生命・財産を守り、平和の安定に日々貢献されているその姿は、日本国民の誇りであると思っております。

本日御卒業される皆様は、昨年6月7日に入校され、その1月後には記録的な豪雨、「平成30年7月豪雨」を体験されることとなりました。市内全域で、大規模な土砂災害や浸水害、断水、停電などが発生するなど、大変過酷な状況に追い込まれた中で、海上自衛隊の皆様には、土砂や倒木、瓦礫の撤去、給水や入浴の支援など、被災地の復興のため、本当にたくさんの献身的な人的、物的支援をしていただきました。心から感謝するとともに、厚く御礼申し上げます。そして、10月28日の自衛隊記念日には、中畑 第1術科学校長 並びに 南 幹部候補生学校長の協力の元、復旧・復興に思いを込めた花火大会が開催され、市民を始め、多くの来場者の皆様、江田島湾の空に打ち上げられた希望の花火の光を浴び、勇気と感動をもらうことができました。

本日御卒業される皆様におかれましては、江田島で過ごしたこの8か月間は、きっと忘れられないものになったのではないのでしょうか。皆様には、ここ江田島で培った「強い使命感」と、御卒業される同期との「チームワーク」を大切にいただきながら、これからも国民の負託に応えていただきたいと願っております。

皆様御存知のとおり、ここ江田島は、明治21年に旧海軍兵学校が東京築地から移転し、その後、昭和31年に海上自衛隊をお迎えしてから現在に至るまで、共存共栄、一体不可分の関係、少し柔らかく言えば相思相愛の関係で発展しており、自衛隊の皆様との「縁」や「絆」を大切にしてきた地でございます。

皆様も、江田島市を「心のふるさと」として、折にふれ訪れていただければ、市民一同、心から歓迎申し上げます。いつの日か皆様とお会いできる日を、楽しみにしております。

結びになります。日本国の繁栄、海上自衛隊の益々の御隆盛、御発展、そして御卒業される皆様並びに御家族の皆様の、御健勝と更なる御活躍を、心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

本日は、誠におめでとうございます。

平成31年2月7日

あき おか しゅう さく
江田島市長 明 岳 周 作